

「降ろしてください」

電車でんしゃの座席ざせきに、一人分ひとりぶんにはちょっと狭せまい余裕よゆうしかなかったら、あなたはど
うしますか。座すわらない？それとも割わり込こんでしまう？

話力研究所わりよくけんきゅうしょの所長しょちょうさんが、こんな話はなしをしてくれました。「必要ひつようなときに
必要ひつような言葉ことばを必要ひつような大きおおきさで言いえば、必かならずあけてくれるものだ」と。

たとえば、八人用はちにんようの座席ざせきに七人しちにんしか座すわってないときに、「すみませんが、席せき
を詰つめていただけませんか」と、その七人しちにんみんなに向むかって声こえをかけると、
新聞しんぶんを読よんでいる人も、狸寝入たぬきねいりをしている人も、皆みなが腰こしを浮うかせて一人分ひとりぶんの
席せきをつくってくれる。ところが、黙だまって割わり込こもうとすると、あるいはすぐ
そばの人ひとにしか聞きこえないような小こさな声こえで言うだけでは、自分じぶんも窮屈きゅうくつな思おも
いをするし、隣となりの人ひとも迷惑めいわくするということです。聞きこえた人ひとは席せきを詰つめようと
するけれども、聞きこえない人ひとは知しらん顔かおをしていて、迷惑めいわくするのは隣となりの人ひとだ
けだというわけです。

ごあ込み合あった電車でんしゃの中なかで、大きおおきなバグもを持った人ひとが、奥おくのほうから強引ごういんに降お
りようとする光景こうけいをよく見みかけます。「降おろしてください」とも失礼しつれいします」
とも言いわずに、ぐいぐい周まわりの人ひとをかき分わけて進すすもうとします。気持きもちちは焦あせ
し、荷物にもつはひっかかるし、周囲しゅういの人ひとは協きょうりよく力りよくしてくれないしでますます降ふ
りにくくなります。

こんなとき、^{わたし}私^{いま}はいつも「^{ひつよう}今^{ちゅうい}が必要^なときですよ」と注意^{して}あげたくありません。ひとこと^{こえ}声をかければ、^{みな}皆がどうにか^{みち}道をつくってくれるはず^{です}。中^{なか}には、「^お降り^{ひと}る人がいますよ」と^{でぐち}出口^{ちか}に近い^{ひと}人へ、わざわざ^い言^{ひと}ってくれる人だっている^{かも}かもしれません。^{むごん}無言^{ごういん}で強引^{ひと}な人のときは、^{ほんとう}本当に^{めいわく}迷惑^だという^{きも}気持ちになる^{のですが}、「^お降^ろしてください」と言^{われ}れば、^なんとか^{きあ}協力^してあげたい^{と思}うのが人情^{です}。

^{でんしゃ}電車^{なか}の中^{かぎ}に限^{わたし}らず、^{にちじょうせいかつ}私^たたちの日常生活^{では}ひとこと^たが足り^{ない}という^{ばめん}場面^{がよく}あります。「^ありが^{たう}」「^すみ^{ませ}ん」のひとこと^たが足り^{ない}という^{のは}よく^{してき}指摘^{され}るところ^{です}。そして、ひとこと^た足り^なかった^{ため}に^{おも}思^いもよ^らない^{じけん}事件^おが起^きる^{こと}もあり、^{じけん}そういう^{しんぶん}事件^を新聞^やテレビ^で知^るたび^{にと}とも^{ざんねん}残念^{おも}に思^います。

人間^{には}、^{ことば}言葉^{という}心^を伝^え合^うすば^らしい^{しゅだん}手段^{がある}のです。これを^もっと^{つか}使^うべき^{です}。^{ひつよう}必要^な時^{とき}という^{きょうくん}教^{えんかつ}訓^{にんげんかんけい}は、円滑^な人間^{たも}関係^{うえ}を保^つ上^で、^{たいせつ}とても^{おも}大切^なこと^だと思^います。